

入選作品発表



大好き!! 緑台!!

——「総合的な学習の時間」と「特別活動」
を軸に子どもと地域をつなぐ——

川西市教育委員会指導主事 **三好 有希**

1 はじめに

人がふるさとに思いを馳せる時、脳裏によぎるのは決してその風景だけではないであろう。友達や家族、教師、そして地域の人…。そこで関わったたくさんの人とのあたたかな思い出が、ふるさとの情景と重なり、人にふるさとを懐かしく思い出させるのではないだろうか。

教職に就いて以来、3校で勤務させていた。どこに勤務しても思うのは、☆子どもたちにとって、自分の街が「大好きな街」であってほしい。

☆「自分たちの力でこの街をもっとよくしていこう」と思える、またそうできる子どもに育ってほしい。

☆成長の過程で街を離れることがあっても、子どもたちにとって自分の街が、「いつか帰りたい大切なふるさと」であってほしいということがある。そしてそのためには、人とのあたたかな関わりの中で、子どもたちが自分たちの街を知り、よさを実感し、よりよくするために考え、実際に行動できるような学習の積み重ねが必要であると考える。

2 「川西市立緑台小学校」(前任校)

を取り巻く環境

川西市は兵庫県の東南部に位置し、市の東側

は大阪府に隣接している。大阪の中心部まで最短20分ほどでアクセスできるため、ここ半世紀ほどはベッドタウンとして発展を遂げてきた。

市内には、丘陵地を削って作られた団地が点在しており、緑台小学校もその1つを校区としている。学校周辺は住宅が大部分を占めるが、団地の西端を流れる猪名川(いなながわ)渓谷沿いには、美しいエドヒガンザクラの群生地がある。地域ではこの群生地を「溪(たに)のサクラ」と呼び、大切にしている。群生地全体が、「兵庫県版レッドデータブックのBランク」に指定されており、地域のボランティア団体「溪のサクラを守る会」の手で保護活動が進められている。

また、学校の南側には、団地造成時に作られた「多田グリーンハイツ商店街」がある。造成直後は、大きな賑わいを見せていたが、団地全体の高齢化と空き家の増加、団地内へのスーパーマーケットの進出等により、客数は減少していると聞いていた。

3 「川西市立緑台小学校」と

「溪のサクラを守る会」

兵庫県では、全公立小学校3年生において「環境体験事業」を実施している。この事業は、「都市化や少子化、人間関係の希薄化など子どもた

ちを取り巻く環境が大きく変化する中、人間形成の基礎が培われる時期に、自然に触れ合う体験型環境学習を行うことによって、命の営みやつながり、命の大切さを学ぶとともに、子どもたちにふるさと意識を育んでいくことを趣旨としている(平成27年度環境体験事業実施要項)より抜粋)。緑台小学校では、本事業を「溪のサクラを守る会」(以下「守る会」)の皆さんのご協力のもと、猪名川溪谷沿いのエドヒガンザクラ群生地を実施させていただいている。

4 「総合的な学習の時間」からのアプローチ

単元名「大好き!! 緑台!! 緑台PR隊」

緑台小学校で、平成25・26年度の2年間、3年生を担当させていただいた。3年生は、前述した「環境体験事業」(緑台小学校は「総合的な学習の時間」内にて実施)だけでなく、社会科においても、身近な地域をフィールドに学習する機会が多くある。これらの学習を起点に、自分の街に愛着を持ち、地域活性化のために主体的に行動できる子どもを育てたいと考え、以下に取り組んだ。

(1) 学習活動の概要 (下表参照)

(2) 各小単元における取り組み

① 緑台のお店のステキを紹介しよう!!

(1) 学習活動の概要

単元名	大好き!! 緑台!! 緑台PR隊	
小単元名	緑台のお店のステキを紹介しよう!!	未来へつなげ、エドヒガン
1・2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の魅力や現状について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークを通し、溪の自然を楽しむ。 ・「守る会」の方とともに保護活動を行い、溪の現状を知る。 ・「守る会」の方の思いを知る。
	課題の設定と解決のための情報収集→調べたことを整理&まとめる!!	
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街活性化のための手立てを考える。 ・商店街活性化のための情報を収集する。 ・収集した情報を精査し、ポスター等にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・溪の保護のための手立てやさらに知りたいことを考える。 ・課題解決のために、調べ学習やインタビューを行う。 ・収集した情報を精査し、ポスター等にまとめる。
	ポスター及びパンフレットを配付したり、参観や集会で発表したりして、全校・保護者・地域へ発信!!	

商店街の魅力や現状について知る

「多田グリーンハイツ商店街」には、20近い商店が建ち並ぶ。おやつを買いに行ったり、髪を切りに行ったりと、子どもたちが日常的に訪れる店も多い。まずは、特に子どもたちになじみのある店の1つに依頼し、ビデオレターの作成

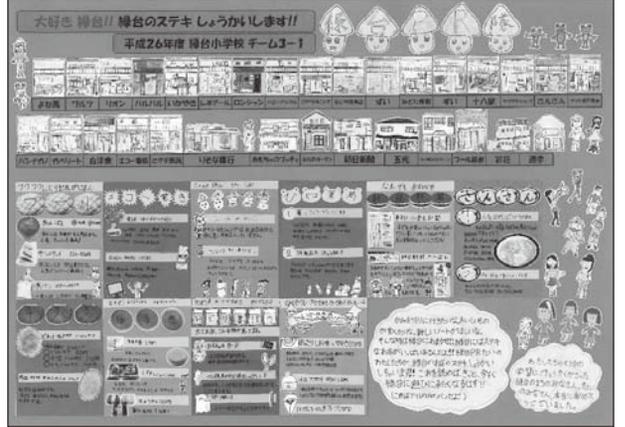
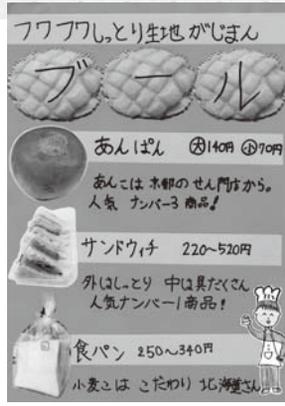
に協力していただいた。ビデオレターの内容は以下の通りである。

緑台小学校の3年生の皆さん。いつもコロッケを買いに来てくれてありがとう。
実は、おっちゃん、おばちゃんには、悩みが1つあります。
それは、商店街のお店の皆さんが減っていることです。
昔のように、お客さんがいっぱい賑やかな商店街になるように、皆さんの力を貸してもらえませんか。

いつも賑わっているイメージがあった商店街が、実はお客さんの減少に頭を悩ませていること、そして何よりも自分たちの大好きなお店の皆さん・おばさんが困っていることを知り、子どもたちは大変驚いた。「なんとかしたいけど、難しい…」という子どもたちの声を受け、「まずは見に行ってみよう」と提案し、子どもたちと見学に出かけた。

見学では、子どもたちは、知らなかった店がたくさんあること、閉店した店が複数あること、自分自身だけでなく、家の





人も行ったことがない店がたくさんあることを知った。同時に、店の人との関わりの中で、これまで訪れたことがない店の魅力も知った。

課題の設定と解決のための情報収集

↓調べたことを整理&まとめて地域に発信!!

子どもたちは、「商店街のいいところを知ってもらったら、お客さんがたくさん来てくれるのでは…」と考え、店のポスターと商店街のパフレットを作成することにした。店ごとに担当を2〜3名ずつ決め、ポスター作りに取りかかった。情報が少なすぎたり、逆に多すぎて何を載せればいいのか悩んだりするグループもある

集会等で発信した後、商店街等や地域の方に配付した。

② 未来へつなげエドヒガン

前述した通り、緑台小学校は「守る会」の皆さんにご協力いただき、「環境体験事業」を猪名川渓谷沿いのエドヒガンザクラ群生地で行っていただいている。この学習を単なる体験ではなく、子どもたちが溪に愛着を持ち、自分たちの力で守っていききたいと思えるような学習にしたいと考え、以下の通り学習を進めた。

自然を楽しむ&保護活動を通して、
溪の現状を知る

ったため、情報が少ないグループは、電話でインタビューしたり、再訪問したりして、情報を再収集した。こうして集めた

情報は、短冊に書き出し、他グループにもアドバイスをもらいながら、掲載する情報を精選し、ポスターを完成させた。

パフレットには、このポスターと商店街の地図を掲載した。いずれも校内にて掲示及び参観や

集会等で発信した後、商店街等や地域の方に配付した。

平成26年度は、群生地での活動を5回実施した。毎回、「守る会」の皆さんのご協力のもと、フィールドワークと保護活動を行った。

フィールドワークでは、子どもたちは、住宅街の中では決して見ることができない大きなカブトムシの幼虫に驚いたり、川や草花で遊んだり、四季折々、様々な姿を見せてくれる溪の自然を体全体で楽しんだ。訪れるたびに、活動地が子どもたちの中で大好きな場所になっていくことを感じた。命を終えた植物は、また新たな植物の栄養となり、そうして命はずっと長くつな

がっていくことも教わった。保護活動では、「守る会」の方々の熱い思いを肌で感じる中で、子どもたちの中に、「今度は自分たちが溪の命を守っていこう」という気持ちの芽生えを実感した。

課題の設定と解決のための情報収集
↓調べたことを整理&まとめて地域に発信!!

半年にわたる活動の中で各自が持った課題を解

自然を楽しむ&保護活動を通して、
溪の現状を知る



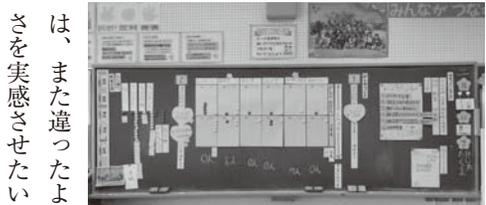
やはり「守る会」の皆さんとのあたたかな関わりや積み重ねの中で、生まれていくのではないかと考え、「環境体験事業」では、そういった積み重ねができるよう、活動を工夫してきた。

そうした中で、1月の半ば頃、A児が「春休みに、溪に行ってもいい？」と尋ねてきた。聞けば、「守る会」のおじさん・おばさんにお世話になったから、お手伝いをして、恩返しをしたい」とのことであった。「同じように思っている人がいるかもしれないから、みんなにも話してみようか」と私が提案し、学級全体にA児の話を出した。A児の話を、「それだったら、サプライズパーティーをして、恩返しをしよう」ということになり、本議題が選定されることとなった。

(2) 話し合い

これまで、「自分たちの学級を楽しくする・よくする」ための学級会は数多く開いてきたが、自分たちや学校の中の誰かではない「相手」のために、学級会を開いたことはなかった。しかし、「相手」＝「守る会のおじさん・おばさん」のことを思って、話し合い、会を開くことで、「自分たちの学級を楽しくする・よくする」と

緑台小学校特別活動の研究イメージ



また、「自分だけが楽しめる」という視点ではなく、「相手にどうすれば、一緒に楽しんでもらったり、感謝の気持ちを伝えたりできるか」という視点で考え、話し合うことができるようにしたいと考え、計画委員会において柱を2つ設定し、話し合いを経て、以下の通り決定した。

柱1…「守る会」のおじさん・おばさんといっしょに楽しめることで何をするか決めよう。

↓ 溪の思い出すごろくと溪クイズ

柱2…「守る会」のおじさん・おばさんに感謝の気持ちを伝えられることで何をするか決めよう。

↓ プレゼント1つ（各自決定）と溪の思い出（スライドを流しながら、呼びかけをして歌う）

(3) サプライズパーティーのための準備と本番

子どもたちの感想から、準備を重ね、迎えた本番は、「守る会」の皆さん、そして子どもたちの笑顔いっぱいのおあなごの会となった。以下は子どもたちの感想である。

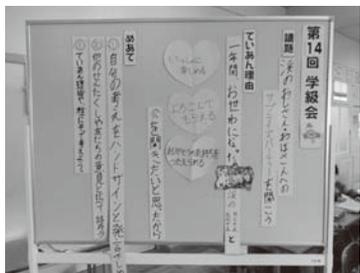
ついにサプライズパーティーの本番がやってきました。サプライズパーティーとは、1年間お世話になった溪の人たちになりがとうの気持ちを伝えたいと、Aちゃんと言いはじめ、3年1組のみんながさんせいで、開かれた会です。学級会では、私は溪の人のためなら、何時間でも話し合っていると、思ってたが、はって話し合いました。(中略)

今までは、学級会で自分たちが楽しめる会の相談をしてきたので、溪のサクラの皆さんという相手のために考えるという議題は難しかったけど、会が終わって、Nさんとあくしゅをする時、ずっと手をにぎってくれていたから、ありがとうの気持ちは伝わったと思います。4月になったら、溪での活動は新しい3年生にバトンタッチです。でもそれまでも、それから、私は溪に行くと、活動がんばって、おん返しをしたいです。

6 終わりに

「緑台のお店のステキを紹介しよう!!」では、子どもたちは、取り組みを重ねる中で、お店のこともお店の方のことも大好きになった。「未来へつなげ、エドヒガン」では、1年の活動の終わりに「守る会」の特別会員の証であるペンダントを子どもたち一人ひとりにいただいた。愛情たっぷり関わってくださった「守る会」の皆さんにお礼の気持ちを伝えたいと、サプライズパーティーを開き、喜んでいただけました。子どもたちの心をきつとあたたかく満たしたに違いない。春休みには、ペンダントを胸に早速サクラの保護活動に参加した子どももいた。「自分たちの力で自分たちの街を活性化させていく・守っていく」一連の取り組みを通して、子どもたちの中で、「商店街」や「溪のサクラ」が、「自分たちの街の大切な場所」になったこと、また地域活性化のために自分たちの力で地域に向けて発信できたことは、大きな成果であったと考える。

この1年の商店街



や「守る会」の方との関わりは、きっと子どもたちが大人になった時、子どもたちに「緑台」を懐かしく思い出させるであろう。子どもたちは、60才になったら溪へ戻り、みんなで活動すると決めている。

今、多くの地方都市において、人口の減少が危惧されている。その減少に歯止めをかけるのは、便利さや豊かさだけではない。その街に住む人たちが、いかに自分たちの街に愛着を持っているか、また自分たちの街をよりよくするために、いかに主体的に行動できるかもまた、大きな鍵を握っていると考える。今後子どもたちが、人とのあたたかな関わりの中で、自分たちの街を知り、よさを実感し、よりよくするために考え、実際に行動できるような学習の積み重ねができるよう、自分にできることを模索し、取り組んでいきたい。



受賞の言葉

二好 有希



子どもたちに対して、愛情たっぷり接してくださった「守る会」の皆さん。子どもたちと「守る会」の皆さんの間には、ただ一緒にサクラの保護活動をしているというだけではない、あたたかな時間が流れていたと感じています。子どもたちもそして私自身も、他のどこでもない、この「溪のサクラ」をこの先もずっと守っていきいたいと思うようになったのは、大好きな「守る会」の皆さんが大切に守ってきたサクラであるからに他なりません。

川西市では、平成27年度「地域と人の輪でつくる育ち学び合う教育の推進」を基本理念に、また「ふるさと川西に誇りをもち 地域や文化、自然とともに生きる人」をめざす人間像の1つとして、教育事業を進めています。市立全小学校においては、第3学年の「環境体験事業」に加え、第4学年にて「里山体験学習」を実施し、日本一の里山「黒川地域」をフィールドに、体験学習を進めています。現在は、「環境体験事業」や「特別活動」からは離れた仕事をさせていたのですが、子どもたちがまずは川西に愛着を持てるよう、自分に任せていただいた仕事の中でできることを頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、「溪のサクラを守る会」代表の西澤猛治さんをはじめ、「守る会」の皆さん、多田グリーンハイツ商店街の皆さん、そして一緒にこの学習を進めてくださった川西市立緑台小学校の先生方に、心より感謝申し上げます。